

島根県立石見美術館 コレクション展

「色をまとう輪郭 ～シャルル・マルタンとジョルジュ・ルパップのイラストレーション」

の開催について

島根県立石見美術館では、コレクション展「色をまとう輪郭～シャルル・マルタンとジョルジュ・ルパップのイラストレーション」を下記のとおり開催いたします。

記

1. 会 期 平成 31 年 2 月 21 日 (木) ～平成 31 年 4 月 8 日 (月)

休 館 日：毎週火曜日

開館時間：10:00～18:30 (展示室への入場は 18:00 まで)

2. 会 場 島根県立石見美術館 展示室 B (グラントワ内)

3. 概 要

シャルル・マルタン (1884-1934) とジョルジュ・ルパップ (1887-1971) は共にアール・デコ期を代表するイラストレーターです。エコール・デ・ボザール (フランス・パリの国立高等美術学校) で学んだ後、ファッションイラストの原画制作を中心に活躍しました。彼らが活躍した 1910 年代から 30 年初頭という時期は、手作業で着彩する高価で色鮮やかなイラストレーションが大流行した時代にあたります。マルタンとルパップは共に、その活躍の初期には、画面を色で埋めつくすかのような作品を描いています。青や黄、オレンジなどで対象の輪郭を捉え、その色には暗がりの淡い光や朝の静謐な空気感、陽光の暖かさ、きらびやかな場のムード、描かれた人物の朗らかさなどが表現されました。本展ではそうした作品から、時を経て輪郭線を重視しなくなってゆく 1920 年代半ばまでの作品を、まとめてご覧いただきます。輪郭線に注目して見ることによって浮かび上がる彼らの特性、魅力をお楽しみいただけましたら幸いです。



シャルル・マルタン 《雪》

1913 年、島根県立石見美術館蔵